

# 保育園・幼稚園など東部114カ所 放射線測定結果を公表

(表1) 保育園、幼稚園、特別支援学校周辺の主な測定結果

	測定値	備考
江戸川区南部のA園	0.34	出入り口側溝のフタ上
江戸川区中央部のB園	0.57	園庭内の雨水升の内部
江戸川区北部のC園	0.66	出入り口側溝の砂を運んだ植え込み
葛飾区東部のD園	1.35	外階段の最下部の人工芝
葛飾区北部のE園	1.08	外階段の最下部近くの植え込み
足立特別支援学校実習棟	1.25	北側道路の側溝
葛飾ろう学校	0.66	通用門横の遊歩道
水元特別支援学校	1.47	北側出入り口の側溝上

測定値の単位は毎時マイクロシーベルト。地上5メートル地点の値。

党都議団が都に要求

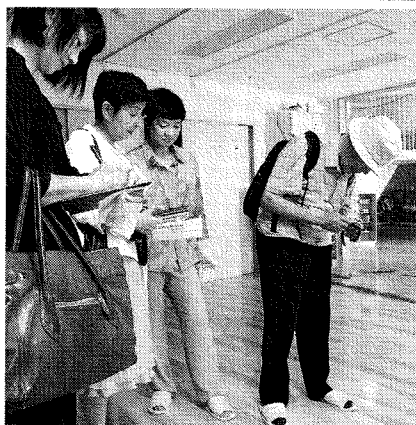
## 除染急いで

日本共産党東京都議団は15日、福島原発事故の影響で放射線量の高い、東部3区(足立、葛飾、江戸川)の保育園、幼稚園の敷地内、

都立特別支援学校隣接地のホットスポットと目される側溝、遊具下など114カ所を測定した結果を発表しました。同日、測定結果に基づき、「子どもの安全第一の立場」で放射線対策を強化するよう、石原慎太郎知事と大原正行教育長あてに申し入れました。

調査は8月25日～9月3日に、都議団が党区議団、日本科学者会、防災書問題研究委員の坂巻幸雄氏らの協力をえて実施。保育園、幼稚園6園の敷地と都立特別支援学校3校の周辺のホットスポットといわれる側溝、すべり台下、人工芝、駐車場などを測定しました。

都に申し入れる共産党都議団15日、東京都庁



室内で放射線量を測定する(右から)坂巻、清水、かち氏ら＝8月25日、葛飾区のD園で

地上5メートル地点で、保育園、幼稚園内は、

(表2) 除染前後の放射線量の変化

場所	備考	測定値	減少率
江戸川区A園	出入り口側溝フタ上部	0.34	38%
	// 除染後	0.21	
江戸川区B園	すべり台降下部	0.41	59%
	// 除染後	0.17	
葛飾区E園	すべり台下砂場	0.33	52%
	// 除染後	0.16	

測定値の単位は、毎時マイクロシーベルト。地上5メートル地点の値。

毎時0.28～1.35マイクロシーベルト、園児が利用する公園は0.26～0.42マイクロシーベルト、都立特別支援学校隣接地では0.33～1.47マイクロシーベルトなど、比較的高い値がでました(表1)。

党都議団は3園のホットスポット4カ所ですべて専門家の助言を受けて、除染を実施したところ、線量が当初より、38～59%減少しました(表2)。

記者会見で、清水ひで子都議は「子どもたちの(放射性物質の)接触、吸入を極力防ぎ、除去したいという思いで実施した」と説明しました。

党都議団は都に対し、▽区市町村と協力し、保育園、幼稚園などの測定を緊急に行い、除染対策を進める▽全都の学校や通学路、公園、都立公園などで詳細な測定、必要な除染をする▽科学者や専門家などの知恵と力を結集し、放射線汚染の実態を調査し、除染を推進するため都放射線調査・除染センター(仮称)を設置するなどを申し入れました。

応対した福祉保健局の梶原洋・総務部長は「関係局に要望の趣旨は伝えます」と答えました。